

はじめ 世界の核弾頭 データポスター しおり

「世界の核弾頭データ」ポスターは、1万3千発以上の核弾頭が存在する私たちの住む世界の現状を、核弾頭の保有国別・種類別に、わかりやすく図示したものです。小学生から大人まで、多くの方に役立つことを願い、核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)と長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)が2013年に製作を始めました。8月の広島・長崎の原爆忌に向けた平和教育に役立てられるように、毎年6月に最新情報に更新して発表しています。

この「しおり」は、ポスターを手に取った皆さんの理解の一助となることを願い、背景情報や専門用語をできるだけ平易に解説しています。とりわけ、学校などの教育現場で活用していただければ幸いです。

ポスターのもととなった詳細なデータは、RECNAのスタッフを含む専門家によって構成される「核弾頭データ追跡チーム」が作成したもので、

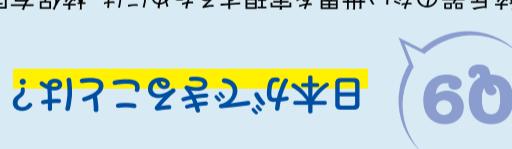
ホームページ
https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nuclear1/nuclear_list_202006



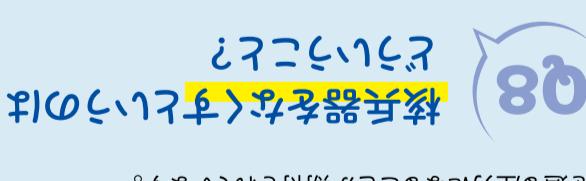
で公開しています。
さらに詳しい内容を知りたい方はそちらをご覧ください。

2020年6月
核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)
長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

核兵器のない世界を実現するためには、核兵器をなくす力が必要です。北朝鮮が非核兵器準備の期限を逃すと、「核兵器の廃止」を実現するためには、国際社会の協力が求められます。日本では、NPTの第六条、第六条の実現のための国際機関の実現(NPT)ほか、多くの国の努力が必要です。核兵器の減らすことも、また他の国の力を必要です。核兵器は、世界を実現するためには、核兵器をなくす力があります。



算量兵器は現在も増加傾向にあるます。現在、世界の核兵器の大部分は米国とロシアで、世界の核兵器修理・処分するためには、他の国々の協力が必要です。核兵器は、二度と核兵器を使うことを禁じる法律です。核兵器の使用を禁止する法律が多くの国で成立しました。しかし、核兵器の修理は、問題となる



世界は正に核兵器の減少の方向に進んでいます。しかし、核兵器は世界の安全保障をもたらす重要な武器であり、その影響は大きなものがあります。そのため、核兵器を削減するためには、国際社会の協力が必要です。核兵器の削減は、世界の平和と安全のためには、非常に重要です。



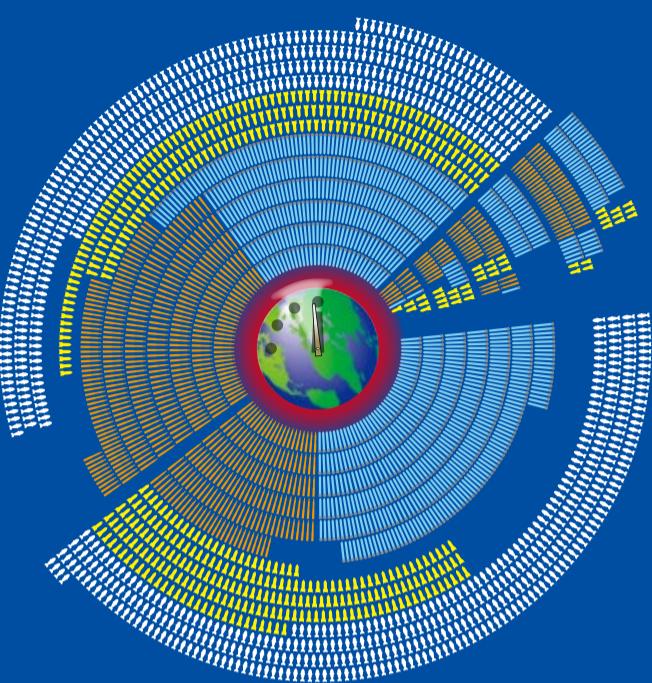
お問い合わせ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

〒852-8521 長崎市文教町1-14

Tel: 095-819-2252 Fax: 095-819-2165

<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/pcu>



13,410

核兵器廃絶
長崎連絡協議会
PCU-Nagasaki Council

RECNA
長崎大学核兵器廃絶研究センター
Nagasaki University
Research Center for Nuclear Weapons Abolition

全世界で再開され、西国の大規模化を止めようとしている。一方で、2018年の米国による「北朝鮮制裁法」による制裁強化が大きな要因となり、経済制裁による影響が大きくなり、北朝鮮の軍事力が弱まっている。これにより、北朝鮮の軍事力が低下する。また、日本は、北朝鮮の軍事力に備えて、軍事費を増加させている。しかし、北朝鮮の軍事力は、まだ十分ではない。

核兵器を持たないために?

68

北朝鮮は、2018年の米朝首脳会談で、核兵器の廃止を約束した。しかし、その後、北朝鮮は核兵器の開発を繼續している。北朝鮮は、核兵器の開発によって、自身の軍事力と威嚇力を強めようとしている。しかし、北朝鮮の核兵器の開発は、世界の平和と安全を脅かすものである。

北朝鮮の核兵器は、なぜ開発されているのか?

69

北朝鮮は、1945年以降、世界で最も多くの核兵器を保有する国です。しかし、北朝鮮は、世界で最も多くの核兵器を保有する国ではありません。北朝鮮は、世界で最も多くの核兵器を保有する国ではありません。北朝鮮は、世界で最も多くの核兵器を保有する国ではありません。

核実験は、世界で最も多くの核兵器を保有する国です。しかし、北朝鮮は、世界で最も多くの核兵器を保有する国ではありません。

世界の核兵器は、原子爆弾よりも威力の大きい「大量破壊兵器」「非人道兵器」です。これらは、被爆者の心身の痛苦をもたらすとともに、被爆者の生存率を下げる。また、強力な放射能による高濃度の汚染も引き起こす。さらに、爆破威力は、通常の爆弾よりも数万倍以上あります。

「核兵器」と「原子爆弾」の違いは?

70

「核兵器」と「原子爆弾」の違いは、主に爆発方式によるものです。原子爆弾は、原子炉の分裂反応を利用した核分裂爆弾(原爆)です。一方で、核兵器は、核分裂反応を利用してエネルギーを放出する核融合爆弾(原爆)です。

「核兵器」と「原子爆弾」の違いは、主に爆発方式によるものです。原子爆弾は、原子炉の分裂反応を利用した核分裂爆弾(原爆)です。一方で、核兵器は、核分裂反応を利用してエネルギーを放出する核融合爆弾(原爆)です。

「核兵器」と「原子爆弾」の違いは、主に爆発方式によるものです。原子爆弾は、原子炉の分裂反応を利用した核分裂爆弾(原爆)です。一方で、核兵器は、核分裂反応を利用してエネルギーを放出する核融合爆弾(原爆)です。

「核兵器」と「原子爆弾」の違いは、主に爆発方式によるものです。原子爆弾は、原子炉の分裂反応を利用した核分裂爆弾(原爆)です。一方で、核兵器は、核分裂反応を利用してエネルギーを放出する核融合爆弾(原爆)です。

「核兵器」と「原子爆弾」の違いは、主に爆発方式によるものです。原子爆弾は、原子炉の分裂反応を利用した核分裂爆弾(原爆)です。一方で、核兵器は、核分裂反応を利用してエネルギーを放出する核融合爆弾(原爆)です。

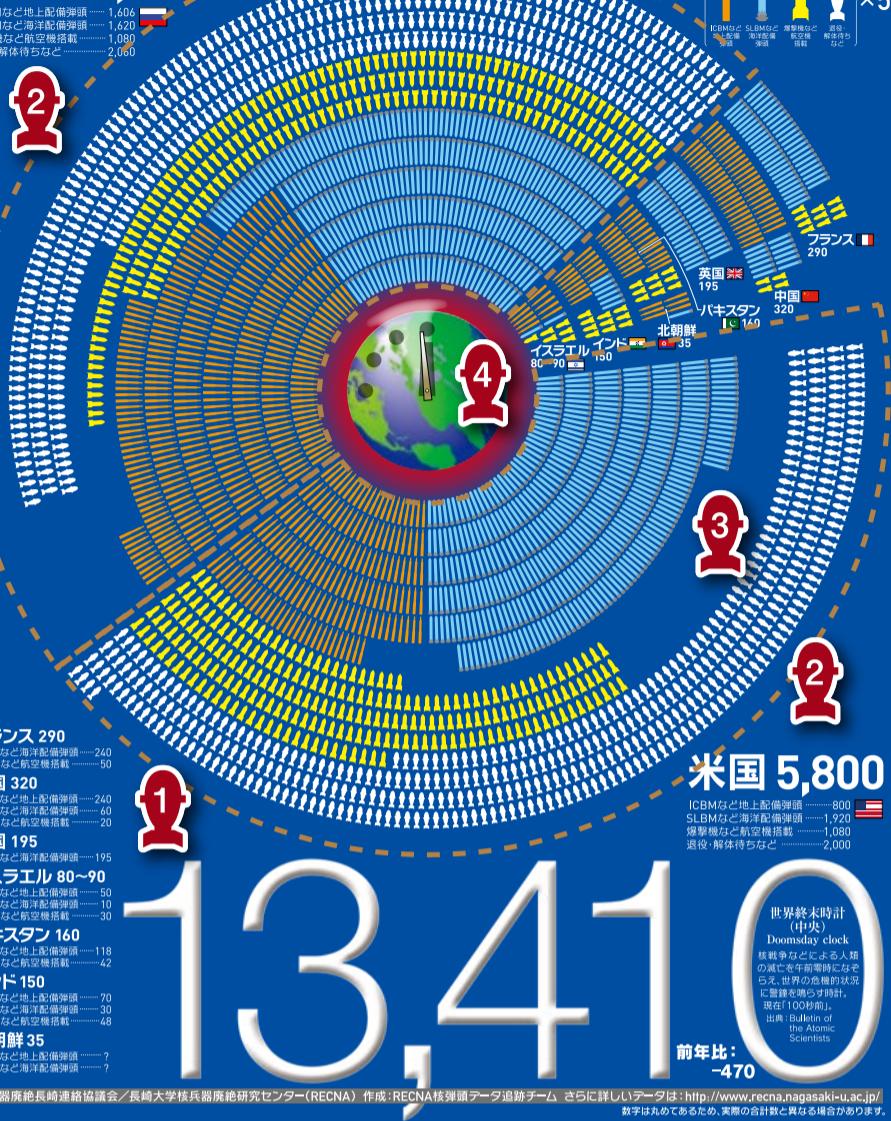
「核兵器」と「原子爆弾」の違いは、主に爆発方式によるものです。原子爆弾は、原子炉の分裂反応を利用した核分裂爆弾(原爆)です。一方で、核兵器は、核分裂反応を利用してエネルギーを放出する核融合爆弾(原爆)です。

FAC

存在する限りは使われる 世界の核弾頭データ 2020.6

ロシア 6,370

ICBMなど地上配備弾頭 1,034
SLBMなど海洋配備弾頭 1,420
爆撃機など航空機搭載 1,090
退役・解体待ちなど 2,050



核兵器廃絶連絡協議会/長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA) 作成:RECNA核弾頭データ追跡チーム

さらに詳しいデータは:<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

3 ドイツやイタリアにも核爆弾

米国の保有する非戦略核弾頭(約150発)が、北大西洋条約機構(NATO)軍用として、ヨーロッパ5カ国(ベルギー、ドイツ、イタリア、オランダ、トルコ)に現在でも配備されています。まさに冷戦の遺物であり、撤去を望む声はヨーロッパ内外で高まっていますが、まだ実現されていません。

4 人類滅亡のときまであと「100秒」?

ポスターの中央の地球には「終末時計」が描かれています。これは、米国の権威ある専門誌「原子科学者年報」が1947年から継続的に発表しているもので、核兵器使用などによる人類滅亡を午前0時になぞらえ、それまでの残り時間で世界の危機的状況を象徴的に示す試みです。

2020年1月、時計の針は残り「100秒」となりました。これまで、世界が最も終末に近づいたのは1953年、ソ連が水爆実験に成功したときの「2分前」でした。核使用リスクの増大、核保有国による核近代化の動きなどを背景に、私たち人類は極めて大きな危機に直面していると専門家らは警鐘を鳴らしています。

核弾頭の運搬手段とその種類

ポスターは、使用される発射台や運搬手段の種類によって、核弾頭を以下の3つに分類して表示しています。それぞれのアイコンは弾頭5つ分です。

潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)
など海洋配備用の核弾頭

大陸間弾道ミサイル(ICBM)など
地上配備用の核弾頭

爆撃機など航空機搭載用の
核弾頭

には、「作戦配備の戦略核弾頭」「作戦配備の非戦略核弾頭」「作戦外貯蔵」の核弾頭が含まれます。

ポスターでは、上記に加えて、「退役・解体待ちなど」の分類を設けています。これは、軍用任務から退役し、解体を前提に保管されている核弾頭ですが、再利用を完全に否定することはできません。

1 世界の核弾頭の総数は推定13,410発

2020年6月現在、地球上に存在する核弾頭の総数は推定13,410発です。核兵器に関する情報は一般的に国家の軍事機密であり、いずれの国も詳細なデータを公表していません。したがって、この問題に取り組む研究者や専門家は、さまざまな角度からの情報を基に、各国の保有核兵器の数や種類、配備状態を推察しています。本ポスターも、そうしたさまざまな情報源からのデータを精査して作られたものです。

13,410という数字にさんはどのような印象を受けるでしょうか。冷戦のピーク時(1987年)には、世界に7万発近い核弾頭が存在しました。それに比べると核弾頭数は大幅に減っています。しかし、2000年代以降、その削減のスピードはけっして速くありません。

昨年(2019年6月)の核弾頭数は13,880発でした。つまり、数字上では、一年のあいだに470発が減ったことになります。しかし、単純に喜べる状況ではありません。米口は、総数は減らしているものの、莫大な予算を投じて保有核兵器の近代化を着々と進め、さらにはもともとの近代化計画になかった新型核・ミサイルの開発・配備にも邁進しています。中国は核不拡散条約(NPT)上の5核兵器国の中で唯一、核弾頭数が増加傾向にあります。インド、パキスタンの両国も核軍拡を進めており、不安定な情勢からも核使用の危険性が高いと見られています。北朝鮮核問題も解決の兆しが見えないままです。

2 米口が90%以上を保有

核弾頭を保有しているのは、米国、ロシア、フランス、英国、中国、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮の9カ国です。

うち、米国から中国までの5カ国は、核不拡散条約(NPT)上で「核兵器国」と定義されています。NPT交渉時にすでに核実験を終えていたからです。インド、パキスタン、イスラエルの3カ国はNPTの枠外で核保有をしています。北朝鮮は2003年にNPT脱退を宣言しました。

米国とロシアの保有数はほぼ等しく、2国で約91%を保有しています。両国の保有する多くの核ミサイルは数分で発射可能な「高い警戒態勢」に置かれており、偶発的な事故等で核兵器が使用される危険が指摘されています。

米口は、2011年2月に発効した新STARTという条約において、それが保有する作戦配備の戦略核弾頭数を1,550以下に削減することを約束し、2018年2月の期限までに目標をクリアしました。しかし実質的には米国で数百発の削減に過ぎず、ロシアにいたっては条約発効時点ですでに目標を達成しているなど、保有核弾頭の大幅削減には程遠いものです。

米トランプ政権は、ロシアや中国の脅威を理由に核抑止強化の必要性を公然と掲げ、核兵器の近代化を進めるとともに、より使いやすい新型核の開発・配備にも力を入れています。あわせて、イラン核合意や中距離核戦力(INF)全廃条約など重要な軍備管理合意からも次々と離脱しました。こうした動きに呼応してロシアも核戦力増強に向かっており、中国も反発を強めています。新START条約の延長や後継条約に向けた米口協議もまだ不透明な状況です。二国間・多国間の軍備管理体制は大きな危機に直面しています。

ことは1 「潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)」

潜水艦に装備された発射管から発射される弾道(おおむね放物線を描く)ミサイルのこと。

ことは2 「大陸間弾道ミサイル(ICBM)」

地上から発射される射程距離5,500キロメートル以上の弾道ミサイルのこと。

ことは3 「作戦外貯蔵の核弾頭」

作戦配備はされていないが、将来の使用の可能性を想定して貯蔵している弾頭。

ことは4 「作戦配備の核弾頭」

部隊に配備・貯蔵され、そのまま使用できる状態に置かれている核弾頭のこと。

ことは5 「戦略核」

戦略上重要となる敵国の都市や主要軍事施設などに対する攻撃を目的とした兵器に搭載される核兵器。他方、より限定した地域的戦争の目的に使われるものを「非戦略核」という。「非戦略核」には「戦術核」「戦域核」と呼ばれるものがある。